

「家がいいね」 第26号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2006.7.12

不思議なのですが、7月早々、宇治橋の上を群れ飛ぶトンボを見ました。セミの声も聞かぬ前の乱舞です。その理由も分からずに眺めています。どこかに説明を求めても無理でしょう。行く末を見守る、あるいは分からぬまままで消えて行くものもあると、ただ感じています。

内藤いづみさんの宿題

講演会で、最期に求められる、人生の5つの課題を聞きました。「忘れちゃダメよ」と主婦の声で念を押されています。思い出すその課題とは、



1 人生を振り返りその意味を考える

2 自分を許す

3 他人を許す

4 「ありがとう」を言う

5 「さようなら」を言う

これは簡単でもあり、とても難しいことでもあります。あまりにも高く遠くを求めすぎると、針の穴を通るより難しくなります。逆に最期の言葉に、「ありがとう」「さようなら」を選べる人は、自然にその他の課題にも応えていると思います。

仕事が出来なければ人間でない？

逆に、日々苦しむ人の、こころの中で渦巻いている言葉がこれです。身体が思うように動かない寝たきりの人も、気持ちが思い通りにならぬ「うつ」の人も、同じように何とか働きたいと焦りながら思い惑われる場面に行き当ります。

自分を認めてもらうことは、仕事を介してでなければできないものなのでしょうか。「世間体が悪い」との「常識」には、鋭いトゲが隠されています。仕事であっても定職・高給でなければと言われ、そのためには学歴も、と言われて、柔らかな子供の心にこのトゲは刺さるのでしよう。

生きることを総体として認め、そのために子の手足を縛らないようにするのは、親の一番の仕事ではないでしょうか。

くちずさむ うたが あったから

わたしは かじりかけのりんごをのこして
しんでいく

いいのこすことは なにもない

よいことは つづくだろうし

わるいことは なくならぬだろうから

わたしには くちずさむうたがあったから

さびかかった かなづちもあつたから

いうことなした

わたしの いちばんすきなひとに

つたえておくれ

わたしは むかしあなたをすきになって

いまも すきだと

あのよで つむことのできる

いちばんきれいな はなを

あなたに ささげると

（ 「しめまえにおじいさんのいったこと」

谷川俊太郎編 詩集 「祝魂歌」から

谷川さんのあとがきから抜粋です。誰もが心の奥底で「からだから解放された魂」というものがあるのではないかと、知っているのではないのでしょうか。魂の新しい旅立ちを祝うことができれば、残された者の嘆きを少しでも軽くすることができるとは、いいのではないでしょうか。

夏季の臨時休業です

8月13日(日) 日曜 休院

8月14日(月) 臨時 休院

8月15日(火) 臨時 休院

8月16日(水) 臨時 休院

8月17日(木) 代替で開院



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp

HP <http://tcp-ip.or.jp/~takuro>